

令和5年度 綾瀬市立春日台中学校 学校関係者評価報告書(様式)

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p>				
<p>学校教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学ぶ人 ・精神と身体の健康な人 ・責任を重んじる人 ・心豊かであたたかい人 				
<p>学校経営方針 (グランドデザイン)</p>	<p>2023 綾瀬市立春日台中学校 グランドデザイン (ONE K)</p> <p>県の教育目標: 心とれあう しなやかな人づくり 綾瀬市の教育目標: 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた綾瀬の子ども</p> <p>学校教育目標: 個性和たれた人材の育成を旨とし、主体的で豊かな学習・社会の発展を推進する ・すすんで学ぶ人 ・精神と身体の健康な人 ・責任を重んじる人 ・心豊かであたたかい人</p> <p>生徒の実態: 思い強く一生懸命取り組む落ち着いた集団力 地域・保護者の願い: 確かな学力の定着 温かい人間関係の構築</p> <p>目指す学校像: 人が活き人を活かす学校 育てたい資質・能力: ☆ コミュニケーション能力 ☆ 課題解決能力</p> <p>教育指導の重点(目指す生徒の育成)と方策</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけた生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 一体感のある校内研究の推進 ◇ 授業改善による学びのある授業の実践 ◇ 知識・技能と思考・判断・表現力の醸成 ◇ 学習内容の定着を図る家庭学習の充実 <p>注: 授業に即向きに取り組んでいる生徒 90%</p> </td> <td> <p>自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 心を育てる道徳教育の実践 ◇ いじめ指導の徹底と充実 ◇ 個別支援の充実と集団としての力の涵養 ◇ 安全できれいな学習・生活環境の整備 <p>注: 思いやりの気持ちを養っている生徒 90%</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>精神と身体が調和した活力ある生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自己受容感を高め、達成感を味わえる指導の充実 ◇ 目的を達成させた特別活動の実践 ◇ 人を育てる 部活動の活性化 <p>注: 学校行事・部活動などに積極的な生徒 90%</p> </td> <td> <p>保護者・地域から信頼される生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 気持ちのよい挨拶の習慣化 ◇ 効果のある情報発信の工夫 ◇ 学校組織の顕石化 ◇ 地域との協働体制づくり <p>注: 気持ちのよい挨拶を心がけている生徒 75%</p> </td> </tr> </table> <p>＜授業の共通実践＞ ・単元指導・単元計画に基づく ・目標を明確させ、立ち戻らせる ・本時の学習内容を確かなる ・効果的な活動を仕組む ・振り返りを通じた学びにつなげる</p> <p>目指す教師像 ○ 学びのある授業をめざして 授業改善・授業力向上に努める学び続ける教師 ○ 生徒には愛情をもって公平に接し、厳しさと温かさを併せ持つしなやかな教師 ○ 「チームとしての学校」の一員として、学校運営に主体的にかかわる教師 ○ 職務規律を守り、危機管理意識の高い、地域・保護者の期待に応える教師</p> <p>＜働き方改善＞ ・効果と効率を考慮した業務改善の推進 ・勤務時間を意識した勤務状況の改善 ・意識しなかった確かな業務の遂行</p>	<p>主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけた生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 一体感のある校内研究の推進 ◇ 授業改善による学びのある授業の実践 ◇ 知識・技能と思考・判断・表現力の醸成 ◇ 学習内容の定着を図る家庭学習の充実 <p>注: 授業に即向きに取り組んでいる生徒 90%</p>	<p>自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 心を育てる道徳教育の実践 ◇ いじめ指導の徹底と充実 ◇ 個別支援の充実と集団としての力の涵養 ◇ 安全できれいな学習・生活環境の整備 <p>注: 思いやりの気持ちを養っている生徒 90%</p>	<p>精神と身体が調和した活力ある生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自己受容感を高め、達成感を味わえる指導の充実 ◇ 目的を達成させた特別活動の実践 ◇ 人を育てる 部活動の活性化 <p>注: 学校行事・部活動などに積極的な生徒 90%</p>	<p>保護者・地域から信頼される生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 気持ちのよい挨拶の習慣化 ◇ 効果のある情報発信の工夫 ◇ 学校組織の顕石化 ◇ 地域との協働体制づくり <p>注: 気持ちのよい挨拶を心がけている生徒 75%</p>
<p>主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけた生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 一体感のある校内研究の推進 ◇ 授業改善による学びのある授業の実践 ◇ 知識・技能と思考・判断・表現力の醸成 ◇ 学習内容の定着を図る家庭学習の充実 <p>注: 授業に即向きに取り組んでいる生徒 90%</p>	<p>自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 心を育てる道徳教育の実践 ◇ いじめ指導の徹底と充実 ◇ 個別支援の充実と集団としての力の涵養 ◇ 安全できれいな学習・生活環境の整備 <p>注: 思いやりの気持ちを養っている生徒 90%</p>				
<p>精神と身体が調和した活力ある生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自己受容感を高め、達成感を味わえる指導の充実 ◇ 目的を達成させた特別活動の実践 ◇ 人を育てる 部活動の活性化 <p>注: 学校行事・部活動などに積極的な生徒 90%</p>	<p>保護者・地域から信頼される生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 気持ちのよい挨拶の習慣化 ◇ 効果のある情報発信の工夫 ◇ 学校組織の顕石化 ◇ 地域との協働体制づくり <p>注: 気持ちのよい挨拶を心がけている生徒 75%</p>				
<p>今年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけた生徒の育成 2) 精神と身体が調和した活力ある生徒の育成 3) 自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成 4) 保護者・地域から信頼される生徒の育成 				

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「すすんで学ぶ人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	生徒の肯定的な意見が昨年度より5ポイント下がりましたが、保護者は9ポイント上がりました。自分をもっと頑張りたいと思っている生徒が多いと読み取れるので、自ら考え、自ら学ぶ生徒の育成ができるように教職員の方からICTの活用を含めた授業の効果的なしかけを用意することに努めます。また、家庭学習を充実させる課題や工夫を教職員で検討し、家庭学習を充実させるように努めます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	多くの生徒が積極的に学校行事や生徒会活動、部活動などに参加しています。学校行事や生徒会活動では、意欲を持って参加する生徒が多く、部活動の加入率も高い割合が続いています。意欲的に参加していると回答した生徒・保護者が8割を超えています。今後も生徒の主体性を高め、充実した学校生活を送れるようにしていきたいと思えます。そして、教職員はさらに人権感覚を磨き、危機管理意識を高く持ち、生徒たちが安心・安全かつ積極的に参加できるように努めていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かであたたかい人」を育てる指導を積極的に行っている。	生徒・保護者ともに約94%、教職員においては約96%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しています。昨年度に引き続き高い数値を示していることから、それぞれが日頃から意識してコミュニケーションを取ろうとする気持ちの表れだと思われます。今後もよりよい人間関係作りのため道徳教育やソーシャルスキルトレーニング、人権教育等の研鑽を積み、「心豊かであたたかい人」の育成に努めます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	90%近くの生徒が「楽しく登校している」と回答しています。授業や学級活動、学校行事などで生徒が主体的に取り組めるように工夫していきます。生徒の活動や交流を充実させ、生徒同士、生徒と教職員がよい関係を作れるようにコミュニケーションを大切にしていきます。加えて、新入生が中学校生活を楽しめるようにサポートしていき、支援を必要とする生徒に対して寄り添いながら、学年、学校全体でよりよい集団作りに取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	日々の授業や学級活動、生活相談等で生徒とコミュニケーションを図り、いじめの早期発見・早期対応・再発防止に繋げていきます。スクールアンケートでは、回答を複数の教職員で確認して見落としがないようにし、生徒への声掛けを大切にいきます。それに加え、面談や家庭連絡を通して保護者との繋がりを大切にし、生徒の様子や変化等に協力して対応していきます。また、教職員間で日々の情報交換を行い、今後も指導・支援をチームとしていじめの早期発見・早期対応・再発防止に向けて取り組んでいきます。

6 保健管理	<p>学校は「精神と身体の健康な人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>生徒・保護者・教職員の「とてもそう思う」、「そう思う」の割合は、ほぼ昨年度同様の数値を示しています。この結果は、学校行事・授業・学級活動等の中で心身の健康に触れる機会が多くあることや感染症等の予防対策における考え方や行動が身につき、取り組んできた成果だと思われます。今後も、日々のけがや体調不良、心の健康に留意し、生徒の精神（こころ）と身体（からだ）の健康・安全の確保のため、学級担任や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが保護者と連携を図り、適切な対応ができるように心掛けていきます。</p>
7 安全管理、教育環境整備	<p>学校は、生徒の安全のための指導や施設設備の点検・整備に取り組んでいる。</p>	<p>創立から40年が経過し、校舎の老朽化が顕著になってきたため、生徒が安全で安心できる学校生活を送ることができるよう、校内施設、設備等の保守点検を、今後更に丁寧に行い、教育委員会と協力して安全管理に努めてまいります。また、今後も、感染症拡大防止等のための衛生管理を徹底します。さらに、PTA校外指導委員会と連携して、通学路の安全を図り、登校指導やあいさつ運動を継続して多くの目で子どもたちを見守っていただけるよう、地域とのつながりを大切にしていきます。併せて、学活や道徳、避難訓練などを通して、自他の身を守ることでできる生徒を育成していきます。</p>
8 支援教育	<p>学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。</p>	<p>約96%の教職員が生徒に対する支援の工夫をしていると答え、支援体制への意識を持って教育活動を行っています。さらに教職員の支援に対する意識を高めていくとともに生徒や保護者と面談する機会を大切にし、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築いていくけるよう努めます。そして、チームとして支援ができるようにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関との連携を図り、情報交換をしていきます。また、職員研修等を充実させ、教職員のスキルアップを図り、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に向けて取り組んでいきます。</p>
9 組織運営	<p>校長を中心とした運営になっている。</p>	<p>学校経営方針（グランドデザイン）に示された学校教育目標達成のため、各グループの総括教諭を中心に校務の取り組み方を工夫改善し、感染症等への配慮も継続しながら、教育活動を実施してまいります。今後も、総括教諭等がリーダー性を発揮し、教員一人ひとりが意識・意欲を高め、また持ち味を生かして、学校全体の組織力の向上に努めます。連携協働の学校運営を図り、全教職員が一体感を持って教育活動に取り組めます。</p>

10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今年度は、悉皆の研修や基本研修、年次研修以外の自己研鑽のための研修に参加する教員が複数おり、研修で学んだ内容や身に着けた知識・技能を、自己の職務に生かそうと取り組んでいました。校内で実施する全教員対象の研修に加え、自己研鑽の研修も大変重要であると考えます。今後も校内研究、道徳教育、生徒理解等の充実を目指し、より効果のある研修会を企画・実施するなどして、教員の総合的な指導力向上に努めるとともに、学校教育目標に掲げられている目指す生徒の育成に全教職員で取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	これまでも「学校教育目標」や「教育指導の重点」で示された生徒像を目指して、教育活動を行ってきました。肯定的な意見の教職員は約96%ですが、不十分と考えている教職員もいるので100%になるように徹底していききたい。今一度グランドデザインを教職員が読み込み、理解を深めていきます。日常の授業だけでなく、道徳、学級活動、生徒会活動、部活動等において、3年間を見通しながら計画的・継続的且つ効果的に行うことで、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指します。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	昨年と同様、多くの保護者から肯定的な回答が得られています。学校情報配信システム(C4th Home&School)やタブレットによるオンライン配信により発信した情報が保護者に届く確率が昨年度から更に増し、学校と保護者・家庭をつなぐ重要なツールとなっていると考えます。個人情報流出の観点から今後も発信する情報をより精査するとともに、本校の教育方針や教育活動、授業の様子など保護者に理解してもらえるように努めていきます。また、3年目に入るコミュニティスクールの取組については、地域との連携・協働のありかたの検討をさらに進めていけるように努めます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- ・アンケートのデータについて。
- 学校評価アンケートについては、今年度は保護者70%、生徒95%の回答が得られ、4年分のデータからも十分に比較・分析できる資料となった。
- ・学力向上のための学習会について教えてほしい。
- 定期テストの前に行う学習会は、昨年度まで実施していた「基礎学力テスト」を行わず、各学年で工夫をして自習や質問をする機会とする形式や授業を振り返るような内容を講義する形に変えた。より多くの生徒が参加し、前向きな学習の場になった。来年度も「中学生学び舎」の実施とともに生徒の学力の向上を図る取組としていきたい。
- ・いじめについて、どう対策しているかを教えてほしい。
- いじめの認知件数については、今年度はスクールアンケートや保護者による連絡から状況がわかり、部活動で指導を要することが多かった。また、不登校傾向の生徒、支援室を利用している生徒も各学年数名おり、その生徒に寄り添った対応と保護者との連携を大切にする必要性を再度確認した。
- ・グランドデザインの指導の重点の振り返りについて。
- グランドデザインの指導の重点については概ね達成できたと感じるが、設定した指標に届かなかったものがある。数値を示すことで目標を明確にして、目の前の生徒に真摯に向き合いながら、来年度も頑張っていきたい。